

明珍会長による防衛省表敬訪問について

当協会の明珍会長は 5 月 12 日、防衛省を訪れ、松永浩二統合幕僚副長および、八木浩二海上幕僚副長に対し、2009 年以来、継続して実施されている海賊対処行動への感謝の意を伝えた。

政府の実施する海賊対処行動について、当協会は、例年国内で関係者をお招きして「感謝の集い」を開催しているほか、ジブチ共和国における自衛隊拠点への訪問団を結成し、現地で任務に従事する自衛隊および海上保安庁等の関係者に対し、直接謝意を伝えている。

この活動の一環として、明珍会長は 4 月初旬にジブチの自衛隊拠点を訪問したほか、国内においても可能な限り多くの隊員に直接感謝を伝えるべく、4 月に帰国した護衛艦「むらさめ」艦長や、海上保安庁にて任務から帰国した隊長に対して、感謝状を贈呈した。

今回これに続いて防衛省を表敬訪問したもので、明珍会長は「現場での弛まない活動が日本商船隊をはじめとする多くの商船の保護に繋がっている。無線で自衛隊と交信すると安心するとの現場の船長からの報告が多い」として御礼の言葉を伝えた。

松永統合幕僚副長からは来訪への謝意に続き、会長のジブチ訪問に触れて、同拠点の鈴木司令より、「実際に訪問して声をかけていただけると非常にありがたく、士気があがった」とする報告があったと紹介された。

八木海上幕僚副長からは、「日本の生活を支える日本商船隊の護衛という任務に強い責任を感じる。今後も使命感を持ってシーレーン確保を続けたい。洋上での日本語による通信は親近感を覚える。」と任務の意義や船乗りの感情などについて説明があった。

会長からは全ての派遣隊員に感謝している旨を述べると共に、引き続き防衛省等による海賊対処行動の継続が重要である旨を改めて伝えた。

当協会からは明珍会長をはじめ、土屋副会長、川崎汽船 遠藤執行役員、商船三井 谷本専務、日本郵船 樋口常務らが参加した。

(海務部 事務局)

統合幕僚監部にて



遠藤執行役員、土屋副会長、松永統幕副長、明珍会長、川村運用部長、谷本専務、樋口常務、宮本首席参事官
平尾常務理事

海上幕僚監部にて



平尾常務理事、土屋副会長、八木海幕副長、明珍会長、芦原運用支援課長、谷本専務、樋口常務、遠藤執行役員